

三 郷土づくりへの参加 三

荒尾市の場合

荒尾市郊外にある野原八幡宮、ここの秋の大祭は「野原さん」と呼ばれ、多くの参拝客でにぎわう。この大祭のメイン行事として登場するのが野原風流。舞童（小学生と中学生）二人が、頭に獅子の頭を象った冠をつけ、狩衣を着て、笛、謡にあわせて踊りながら太鼓を打つ。この風流には七十五十年の伝統があるという。しかし最近、舞童師匠、笛手、謡手、獅子頭製作者等が高齢化し、舞童の養成も困難になり一抹の不安が生じた。

そこで荒尾市では、地域文化の伝統を守ろうと、風流保存会（会長荒木伴蔵さん）の協力を得て、風流の歴史、横笛の製作、ふき方等を青少年に指導している。風流の学習実践活動により、伝統を守るとともに、ふるさとを愛する心、地域形成者としての自覚が芽生えつつあるという。同市では、さらに地域住民の協力を求め、「青少年ふるさとづくり運動」を展開していきたいと張りきっている。



▲夜遅くまで続く風流横笛の製作。自作の笛でふき方の練習も行う。

▲750年の伝統をもつという「野原風流」。風流の学習実践活動により後継者づくりが行われている。